

放射性物質全域調査及び土壌回収作業進捗状況(平成18年12月)

実施項目		実績(12月)	予定(1月)
所内 全域 調査	1. 第1次調査	(完了)	
	2. 第2次調査	分析作業((財) 日本分析センター)	(調査対象場所の建物などが撤去されるまで休止)
土 壌 回 収 作 業	1. 回収計画立案	(完了)	
	2. 準備作業	鉱石由来土壌回収場所にテントを設置	同左
	3. 回収作業	回収場所A、B、Cにおいて回収作業を継続。 他の鉱石由来土壌回収場所においても回収作業を継続	同左
	4. 回収土壌などの保管	12月31日現在、精製済ウランを含有する土壌などを1.5m ³ 角型容器で11個(200リットルドラム缶換算82.5本)回収し、放射性廃棄物として施設Sに保管、鉱石由来のウラン、トリウムを含有する土壌などを1.5m ³ 角型容器で58個回収しS棟に保管	
そ の 他	1. 環境モニタリング	空間線量当量率及び空気中の放射性物質濃度の測定。地下水の採取と分析	同左
	2. 放射性廃棄物の保管 (旧核燃料試験研究施設整備)	12月31日現在、200リットルドラム缶152本、1.5m ³ 角型容器2,756個、2m ³ 角型容器828個、200リットルドラム缶換算で合計29,102本を地下保管庫(施設N)に保管。なお、地下保管庫にはNDC社が、1.5m ³ 角型容器で1,180個(200リットルドラム缶換算8,850本)を保管	

以上